

長野の林業

No.
396
2024.11.10

特集

県産材でウッドチェンジ

トピックス

- ・狩猟者確保・育成の取組
- ・林地未利用材活用研修

コラム

地域の話

県森連だより

- ・林業士リレーコラム

- ・佐久地域/南信州地域/北アルプス地域



瑞穂木材_新製材工場_全景



帯鋸盤製材機



2×10材・2×8材

カラマツ大径材を利用するため、2×4住宅に使用するJAS認証カラマツ部材(2×8材・2×10材)を製材する工場が、木島平村に完成しました。将来的には、年間で1000立方メートルのカラマツ丸太を製材する計画となっています。



長野の林業
フルカラー版

県産材でウッドチェンジ！ ～長野県の取組を紹介します～

「ウッドチェンジ」とは？

「身の回りのものを木に変える」「木を暮らしに取り入れる」「建物を木造・木質化する」など、木の利用を通じて持続可能な社会へ転換（チェンジ）し、木材利用を拡大していくための行動です。

① 駐車場を県産材でウッドチェンジ！

令和4年度から森林環境譲与税を活用し、県産材製品の開発や需要拡大に繋げる取組の支援を行っているウッドチェンジ普及促進支援事業も3年目を迎え、ウッドチェンジの輪が徐々に広がっています。今回紹介する取組は、株式会社三建（長野市）のアスファルトの駐車場を木製にウッドチェンジしようという斬新なアイデアについてです。株式会社三建は主に木製サッシやウッドデッキの施工等を手掛け、木の扱いに長けた会社です。

超高耐久処理木材とは？

一般的に、木材を外でむき出しで使うと、数年で腐ってボロボロになっているのをよく見かけます。しかし、今回材料として使っている超高耐久処理木材（樹種・スギ）は、木材を圧縮、インサイジング処理を行った後に、加圧防腐注入処理を施したものです。治山事業などの木製構造物にも使用されており、その耐久性は30年以上ともされています。超高耐久処理木材の詳細についてはコチラ↓



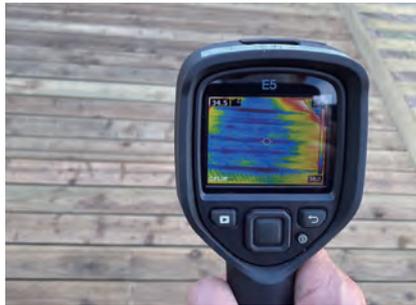
木に変えるメリット

駐車場を木製にすることで生み出されるメリットは、夏の強烈な照り返しの抑制、都市部や公園における景観への配慮、木材の新た



▲アスファルト舗装 50.1°C

▼木製舗装 34.5°C



な需要先を確保、炭素の固定等、多様です。

現在、長野森林組合の駐車場に試験施工し、強度等の性能を検証中です。近くに御用の際は、是非覗いてみて下さい。

今後、街中でアスファルトの駐車場から木製の駐車場へと置き換わり、木が皆さんにとってもっと身近な存在になる日が来ると思いますね。



▲施工前(アスファルト舗装)



▲施工後(木製舗装)

令和4～5年度の取組事例の紹介はコチラ↓



②ウッドパイロン

「Kolmio」(以下、コルミオ)について

コルミオは、フィンランド語で「三角形」を意味する言葉で、長野県産カラマツを主な材料として製作されています。

今までにない新規性、機能性、既存のバーが使える互換性を持ち、3枚の板を重ね合わせた単純な構造のシンプルデザイン、無垢の木を活かした質感で、人の目にも優しく景観を損ねないため、高級店の看板にも使えます。

想定される利用シーンとしては、公共施設、イベント会場等の安全保安用の誘導具、店舗などの看板、観光地やお寺などの景観保護など様々なシーンで活用できます。



▲コルミオ
(既存のバーが活用可能)

製品開発のきっかけ

製品を開発したレッドハウスファニチャー(塩尻市)の増田氏は、2020年にレジ袋の有料化問題を発端に、脱プラスチックの為ウッドバスケット(カラマツ)を発売し、ウッドデザイン賞2021を受賞したことから常に「ウッドチェンジ」を考えていたそうです。

また、町や道路で沢山のカラーコーンが目にとまり、劣化してよく見かける事から、河川や海洋汚染が気になり、木工家として「コルミオ」を開発する事が、社会貢献活動として意味のある事と捉え、試作を重ねて、2024年1月のモクコレにて展示を行ったところ、多くの反響があり、特許出願まで至った。と教えていただきました。



▲マグネットで貼紙を行うことも可能

県庁で寄贈式を行いました！

県産材の需要拡大と販路開拓に向けたPRの一環として、長野県へ寄贈していただく運びとなり、令和6年8月21日(水)に県庁6階林務部長室において、寄贈式を実施しました。

当日は、製品開発をしたレッドハウスファニチャーの増田代表と原材料の提供と販路開拓の支援を行う瑞穂木材(株)の宮崎専務取締役(信州ウッドコーディネーター)から須藤林務部長へコルミオ10個が手渡されました。



▲寄贈式の様子



▲コルミオ寄贈いただきました
(左から宮崎専務取締役、増田代表、須藤林務部長)

ウッドチェンジの推進について

寄贈していただいたコルミオは、県庁玄関ホールや県庁内の各部署で開催するイベント等で活用し、PRさせていただきます。

お近くへお出かけの際は、ぜひ手に触れてみてください。県では、2050ゼロカーボンの実現に向け、暮らしの中に木を取り入れる「ウッドチェンジ」を引き続き進めてまいりたいと思います。



▲長野県庁の玄関ホールへ設置



▲イベント等で活用しています

【県産材利用推進室】

狩猟者確保・育成の取組



長野県におけるニホンジカをはじめとする野生鳥獣による農林業被害額は、年間約7億9千万円(令和5年度)にのぼり、農林家の生産意欲を減退させるなど、農山村地域における深刻な問題となっています。農林業被害低減のためには、防除対策・生息環境対策・捕獲対策を総合的に取り組む必要がありますが、このうち、捕獲対策を担う狩猟者は近年、減少傾向で、高齢化が進んでいることから、将来の捕獲担い手の確保と捕獲技術の継承が課題となっています。

この課題を解決するために、県では平成26年から狩猟者の確保・育成事業に取り組んでおり、令和5年度は狩猟免許を取得して3年以内の方を対象とした「長野県ハンターデビュー講座」を開催し、53名の方に参加いただきました。本講座では、座学だけでなく、くくりわな実習と銃猟実習を取り入れることで、銃猟経験の少ない方でも、実践的な捕獲技術や知識を習得できるようにしました。

座学では狩猟現場に必要な知識として、ニホンジカ・イノシシの生態的特徴やわな・銃器を用いた捕獲方法について、センサーカメラなどで撮影した映像も活用しながら、受講生に分かりやすく伝えることができました。

くくりわな実習では、くく



捕獲経験豊富な講師からくくりわなの作成方法を学びました

りわなの作動原理や取り扱う上でのポイントを受講生に掴んでもらうため、くくりわなの作成を行うとともに、効率的かつ安全に捕獲するためのくくりわな設置地点の選定についても解説しました。

銃猟実習は県内の狩猟者グループにご協力いただき、巻き狩り猟を行いました。受講生はそれぞれタツマと勢子(せこ)に分かれて猟に参加し、巻き狩り猟での勢子の動きやタツマの配置を学ぶとともに、銃猟の緊張感を味わうことができました。この実習では、ニホンジカ1頭、イノシシ1頭を捕獲することができ、受講生からは「自分たちの力で獲物を捕獲する喜びを味わうことができた」と言った感想を聴くことができました。銃猟実習後は、ニホンジカの解体も実施し、受講生からは大変好評でした。



解体実習の様子。受講生も初めての解体に興味津々でした

令和6年度の長野県ハンターデビュー講座は、昨年度の内容に加えて、これから狩猟を始めたい方や狩猟に関心のある方を対象とした、初心者向けの講座を令和7年2月23日(日)に長野市で開催します。「どうすれば狩猟を始められることができるのか」、「どういった狩猟スタイルがあるのか」と言った疑問にお答えするとともに、先輩狩猟者との座談会を通して、狩猟の魅力をお伝えできる内容となっております。また、捕獲個体の解体実習も予定していますので、狩猟に興味のある方や狩猟免許の取得を検討されている方は、是非、ご参加ください。



【参加申込はコチラ】

【森林づくり推進課】

「未利用材、うまく集めて、有価物」をテーマに 林地未利用材活用研修in立科を開催しました

令和6年10月10日に立科町において、主伐後に残された再造林の妨げとなる林地未利用材を木質バイオマス資源として有効活用するため、枝条をチップ化する実演と座学での研修を開催しました。この研修会は令和4年度に「駒ヶ根市」、令和5年度に「上田市」で実施し今回で3回目、研修には80名を超える林業関係者が参加し林地未利用材活用に向けた機運の高まりを感じる研修でした。

【現地研修(立科町有林)】

現地研修では、大型チップパーと移動式小型チップパーによる実演を行いました。(有エンジンアリングウッドの小野澤様と佐久森林組合の堀籠様からは、枝条を運搬してからチップ化する方法に対し、現場で処理する方法は効率的な反面、チップパーを設置するスペースの確保が課題になるとの解説がありました。また、林内移動式チップパーの効果的な運用方法等についての実演と課題の報告がありました。破碎したチップは、塩尻市にある発電施設に運搬し、燃料として活用されることでした。



【座学による研修(立科町役場 大会議室)】

①林野庁整備課造林間伐対策室の田ノ上様からは省力・低コスト造林の推進のための「省力・低コスト造林の技術指針(案)」についての紹介がありました。

日本全国で広く造林されたスギ・ヒノキ・カラマツの「並材」を生産目標の中心とする育成単層林の造成に向け、再造林の省力・低コスト化を図るため、「地拵え」は、伐採・搬出に使用した林業機械を活用、「植栽」は、苗木・獣害対策用の資材を機械で運搬し低密度で植栽、「下刈り」は、回数や面積の削減など、同技術指針(案)の要点を他県の事例も合わせて紹介していただきました。

②立科町の岩間様(地域林政アドバイザー)からは、「立科町有林の主伐・再造林の推進」について、皆伐実施等の取組や町有林の木材を活用し

た移住定住促進住宅について報告がありました。

立科町の約4割を占有する町有林は、全てSGEC認証森林であり、主伐・再造林が進められています。生産された木材(カラマツ)は、信州ウッドコーディネーターの協力を得て町の移住定住促進住宅に活用していくとして紹介がありました。

③長野県林業総合センター育林部の大矢主任研究員からは、「機械地拵えによる造林作業の省力化とD材利用」についての研究報告がありました。

④県の未利用材等活用システム構築支援事業では、3件の発表がありました。

○佐久森林組合の堀籠様からは、現地研修の現場で取り組まれた末木枝条の破碎から発電施設までの運搬システムについて、費用を含めた詳細な説明があり、採算ラインを考慮した一日当たりの破碎量等について報告がありました。

○松本広域森林組合の武井様からは、伐採した原木等を集荷・分別を図るために、筑北村に設置した「共同中間土場」について発表があり、未利用材の活用には、集積・運搬コストの低減が課題として報告がありました。

○綿半HDの小池様からは、南信州地域で中間土場と山土場を活用した2つの集荷システムについて報告があり、「林地残材回収コンテナ」を導入して、3か月で約千トンを集荷できたことで、「林内がきれいになり、地拵えが楽になった」とする声があったとの報告がありました。

⑤最後に、講師と参加者による意見交換が行われました。

未利用材の販売において山側で採算が合うために、発電所側には、水分量が低く熱効率の高いチップとそうでないものとで価格差を検討して欲しいとする要望や、低密度植栽については、間伐が減ると優良木を選抜する機会が失われるデメリットがあるといった意見が出るなど未利用材の活用や再造林の省力化に向けての現場からの熱心な議論が展開されました。また、県からは、令和6年9月補正予算において計上した「地域資源利活用システム構築支援事業(11月公募予定)」の趣旨等の説明をしました。

今回の研修が、多様な森林づくりそして力強い林業の発展に役立つことを期待します。



【森林づくり推進課 造林緑化係・県産材利用推進室】



このコーナーでは、
林業士の活動状況など
をリレー形式でお届け
していきます

当コラムの左下に林業士とはつまり「地域林業の中核的人材」だと簡潔な説明があると思います。私などでは絶対的力不足です。そのような王道は他の方に譲るとして、私の活動場所は王道と異なると道のはしっこらへんの際や溝みなど活動していることを書いていこうと思います。

私は「山が荒れている」と聞いて、林業界に飛び込んだくちな



高校生の伐倒実習を指導

ですが、山に関われば関わるほどに「山が荒れている」とは「山に関わる人の心が荒れている」を省略して言っているのではないかと考えるようになりました。よく言われる木材価格の下落・低迷、燃料革命などで、山の経済的価値がなくなってきたから人が関心を寄せなくなった説があります。まあ、確かに一面そうでしょう。おままだが食べられなくなったら大変です。しかし、こうも思うのです。経済的価値でしか山と関わろうとしなくなりました。そのような人の在り方こそ荒んでいるのでは、と。ですから、すぐく野暮かもしれないせんが山や木にふたたび興味関心を持ってもらうようにしたい。人々が山を無視できないようにしたい。それで……「山頂で本屋さ



高校生にドローン操縦の実演

ん」、「テンカラ入門講座」、「野宿講座」、「登山道で哲学」、「山頂でブックカフェ」、「鹿技工士養成講座（猟師さんとシカ解体イベント）」、「山頂で文化祭」、「ホットサンドの研究」、「家具屋さんで行く森ツアー」、「山頂で芋煮会」、「どうでしょう、修験道」、「山頂炊飯」、「縄文ZINEに相談だ」、「駄木工／駄木育」、「野糞入門講座」……など山や木に少しでもかすっていると思つたものを全てイベント化してきました（反響はあったりなかったり）。

全然林業と関係ねえじゃねーか!!というお叱りが今にも飛んできそうです。そのお叱りはごもつとも、甘んじてお受けしますと思いつつ、「事実というものは存在しない。存在するのは解釈だけである」という哲学者ニーチェの言葉をもって、ほんの少しだけ反論。「なんでもアリ」は行き過ぎですが、この業界はともすると閉じたがる、内にこもりたがる傾向があるなあと感じています。故にニーチェなのです。「それも林業だよな」と間口を広げて解釈を広げたら、面白くなつていくんじゃないでしょうか。閉じるのではなく、開くのです。

ところで「羨ましい」を「裏山らしい」と言い換えてふざけている、山持ちの友人（やはり林業関係者）

がいます。山を持っているってスゲーことなんだ、それだけで価値あることなんだ、うらやましい（＝裏山欲しい）。100年後に「裏山しい」が広辞苑に載るように頑張っていきたいと思います。

プロフィール

細井 岳（ほそいたかし） 43歳
既婚／B型／うお座／東京都出身
2012年に長野県に移住し
林業に関わり始める。現在は佐
久森林組合に勤務し、地域の林
業のため、献身的に働いている



御座山で開店「山頂で本屋さん」
（撮影：淵上健太）

林業士とは？

地域の森林林業現場で主体的に活動する方を増やし、林業の活性化を図るために昭和48年から長野県が認定しているもので、県下各地で「地域林業の中核的人材」として活躍しています。

佐久地域

主伐地における簡易架線集材現場 見学会を開催しました

佐久地域は、カラマツを中心に人工林が成熟期を迎え、積極的に「主伐・再造林」が進められています。木材生産を進める森林の内、森林作業道開設に適さない急傾斜地での伐倒、集材作業が課題となっています。課題解決に向けて、令和6年8月7日(水)に現場担当者である南佐久中部森林組合の井出大二郎技師を講師に招き、スイングヤーダを使用した簡易架線集材現場見学会を開催しましたので、紹介します。

見学会場の南佐久郡南相木村は急傾斜地で岩場が多く、作業道開設が困難な箇所が多いため、現状は作業道を開設できる箇所まで開設し、ウインチ付グラブによりワイヤー集材を行っています。作業道から尾根までの集材距離が長く、人力でワイヤーを担いで荷掛けすることから集材作業が生産性のボトルネックとなっていました。

そこで、森林作業道が開設できる地点から尾根までスイングヤーダを使用し、簡易架線集材をしました。簡易架線は設置してしまえば、その後の集材作業がスムーズに行え、荷掛け者がワイヤーを担いで上り下りする重労働がなくなり、効率的に集材作業ができるメリットがあるため、今後の主伐において簡易架線集材は、有効な作業システムだと思います。

当日は、上田地域・諏訪地域の事業体の皆様にもご参加いただき、有効な現場見学会となりました。今後も、高密度路網に適さない地域での効率的でバランスのよい集材システムの普及を進めていきたいと思っております。



【佐久地域振興局林務課】

南信州地域

第6回純国産メンマサミットin飯田 が開催されました

令和6年10月13日に、飯田市のエス・バード(南信州飯田産業センター)で第6回純国産メンマサミットin飯田が開催され、全国から500名の方が参加されました。

この催しは、「おいしく食べて竹林整備」を合言葉に、竹の利活用をしながら竹林の整備を推進しようとする全国各地の団が集い意見を交換する全国ネットワーク「純国産メンマプロジェクト」が共催し、全国持ち回りで開催しているものです。

会場には様々なイベントが有り、来場者の熱気で溢れかえる賑わいでした。

○クラフトメンマストリート(全国のクラフトメンマの試食販売コーナー) 全国から15の出展が有り、各地の味付けや食感など工夫を凝らした商品が並びました。

○長野県からは飯田市立竜丘小学校の「天龍いなちく」が出品され、児童の元気な売り子の掛け声が会場いっぱいに響いていました。

○竹資源活用ブース(竹資源の活用の試みを紹介) 竹粉砕機や炭化器などの展示や、竹クラフト製品の展示販売、竹材を活用した土木資材の展示コーナーなどのほか、国産メンマ入り塩焼きそばの販売が行われました。

○竹菜レシピEXPO(純国産メンマを使ったレシピコンクール) 全国各地から47件のレシピが集まり、ファイナリストに選ばれた6つの料理が料理教室形式で披露されました。

○講演会 長野麻子様(株式会社モリアゲ)、小林慧人様(森林総合研究所)から基調講演をいただいた後、伊藤隆子様(NPO法人いのだに竹links)からメンマの製法の事例発表がありました。その後竹菜レシピEXPOの結果発表と竹林整備に関するパネルディスカッションが行われました。

一連のイベントを終えた参加者の皆さんは、同じ会場で行われた意見交換会でそれぞれの思いを熱く語り合う時間を過ごされました。

このイベントがきっかけとなり、放置竹林解消の取組が、竹の根のようなネットワーケとなり県内に広がることを期待しています。



【南信州地域振興局林務課】



北アルプス地域

森林(もり)の里親契約調印式を行いました

9月2日、株式会社レゾナック・ホールディングス、株式会社レゾナック・グラフィイト・ジャパンの2者と長畑地区森づくり協議会(大町市)が森林(もり)の里親契約を締結しました。

北アルプス地域振興局管内では10件目、県内178件目の契約となりました。

里親の株式会社レゾナック・ホールディングスは日本有数の大手化学メーカーであり、グループ会社にあたる株式会社レゾナック・グラフィイト・ジャパンは、鉄のリサイクルに使用する黒鉛電極を主力製品として市内の工場で製造をしています。また、市内に2箇所、生坂村に1箇所、計3箇所の発電所を保有し、送水管は全長36kmになります。送水の段階で市内の取水困難地域へ生活用水や農業用水を供給し、市民の生活を支えています。

また、今年度、木質チップを活用したボイラーを工場内へ導入する計画としており、工事を進めているところ です。

里子の長畑地区森づくり協議会は森づくりを通して、持続可能な森林の荒廃防止、自然環境の保全、環境教育の場としての森林の活用を図ることを目的に令和5年1月に設立されました。

今後、里親企業と地区が連携し、植栽や下刈りのほか林内の歩道整備を行う予定であり、両者の交流が盛んに行われることに期待が寄せられています。



契約調印式に出席した皆さん

【北アルプス地域振興局林務課】

近年、毎年のように過去に例のない自然災害が発生しています。

主伐期を迎えた森林 再造林地に安心をご加入はお近くの森林組合へ

TEL:026-226-2504

長野県森林組合連合会

森林保険

※1ha 加入時の例

樹種	林齢	加入年数	保険金額(補償額)	保険料(掛け金)
カラマツ	1年生	1年	800,000円	3,432円
ヒノキ	51年生	5年	4,500,000円	65,205円





▲会議の様子

8月29日～30日、山ノ内町の湯田中温泉郷にある「ホテルおもだか」にて、第49回中部6県森林組合職員連盟ブロック会議が開催されました。

当日は長野県林業職員協会の山下会長をはじめ、県内の森林組合、県森連、新潟・富山・福井・岐阜の各県会員と全国森林組合職員連盟から計30名が参加いたしました。

初日は、若年層・女性理事の就任状況・スギ花粉発生源対策・労働安全対策等を議題に情報交換が行われました。なかでも、森林組合職員および技能職員の担い手不足や育成についての話題、再造林での苗木不足問題等、近隣県域での優良事例や課題を共有する貴重な会議となりました。

2日目は、北信州森林組合 南都業務課長から、「北信州森林組合にて導入したICTハーベスター」の講演がありました。



中部6県森林組合職員連盟 ブロック会議 in 湯田中温泉



ICTハーベスターは「Stanford 2010」という、高性能林業機械がやりとりするデータの国際的標準を用いているのが特徴で、現場で造材を行う際に、ハーベスターのコントローラーから木材の価格表をもとに最も高く売れる長さに造材し製材工場とデータ上のやり取りが行えます。北欧では、普及が進んでおり、日本の林業と海外の林業は、材価の決定プロセスが異なることが触れられました。

講演後には、実際の使用頻度や山林内で電波が悪い場所でも問題なく使用できるか、物流会社との連携をしてみるのはどうかといった質問が飛び出し、接近する台風10号の影響もあり、当初予定していた現地視察は中止となりましたが、関心の高さが伺えました。

長野県林業職員協会大会 in 駒ヶ根高原



▲約20kgの資材を運び、秋空に舞うFLYCARD30



▲胸高直径はいくつかな？

10月24日～25日に令和6年度長野県林業職員協会大会が開催されました。会員の森林組合職員、市町村林務担当者など県内各地から36名が参加し、初日は、霊犬早太郎伝説でも有名な上伊那の名刹「光前寺」にほど近い、駒ヶ根高原「大沼湖」周辺の森林内で、林業技術競技会が開催されました。

開会式では、長野県林業職員協会の山下貴之会長と長野県森林組合連合会の村松敏伸専務理事より主催者挨拶があり、上伊那地域振興局林務課課長 逸見玲子様、駒ヶ根市農林課課長 入谷吉博様、上伊那森林組合専務理事 富山裕一様より来賓の挨拶をいただき、競技会がスタートしました。

競技は7種目（樹高、胸高直径、単木材積、林分面積、林分材積、作業道距離、架線距離の目測）について機器を用いずに計測を行うもので、今回は南信三郡職協技術競技会との併催となりました。日々の業務で培った森林をみる目が発揮され、誤差ゼロの回答が出るなど大いに盛り上がりました。

2日目は駒ヶ根高原スキー場のゲレンデと、宿泊懇親会会場となった駒ヶ根高原リトリートすずらん風の広大間にて(株)旭テクノロジによる「運搬用ドローン実演会と植栽現場における実証成果報告」が行われました。最新機の実演ともあって、どのぐらい工数が圧縮できるのかなど、運用に関わる質問が相次ぎました。



長野の森で遊ぼう

ながの
森林・林業
フェア
@茶臼山自然植物園

10月19日、長野市茶臼山自然植物園で「長野の森林・林業フェア 長野の森で遊ぼう」が開催されました。

長野市や林業関係団体で構成された実行委員会が主催する、子どもから大人まで、森に親しみ林業を体験できる普及啓発イベントで、当日は、木工やクラフト体験やクイズラリー、飲食店などが並ぶマルシェなどが行われるほか、先着100名への花苗のプレゼントなどが行われました。

長野森林組合では、キノコ原木の駒打ち体験やチェーンソーアートの実演、林業機械の展示を行ったほか、長野県森林組合連合会では、伊那市西箕輪の「やまとわ」の経木「Shiki(シキ)」を使ったランタンづくりを行いました。およそ150名の方にご参加いただきました。



▲熱中する子どもたち



▲手触りや香りを楽しみながら制作



▲完成した経木のランタン



▲経木の販売ブース

経木(きょうぎ)は、木を紙のように薄く削り乾燥させてつくる、日本伝統の包装材料で、「調湿」作用と、通気性、抗菌性に優れており、蒸し物の敷紙や落し蓋など料理に使うほか、クラフト材料としても様々な使い道があります。

ほのかな木の香りと木目の美しさがあり、環境にも体にもやさしく、暮らしをより心地よくする素材として注目されています。

完成したランタンに明かりを灯した時、子どもたちからは「きれい」と歓声があがりとても楽しんでくれた様子で、「これが木を削ったものなの?」や「これは何の木なの?」など質問があり、ランタンづくりから山や木に興味を持っていただける機会となりました。経木のランタンを自宅等で楽しんでいただけたら幸いです。

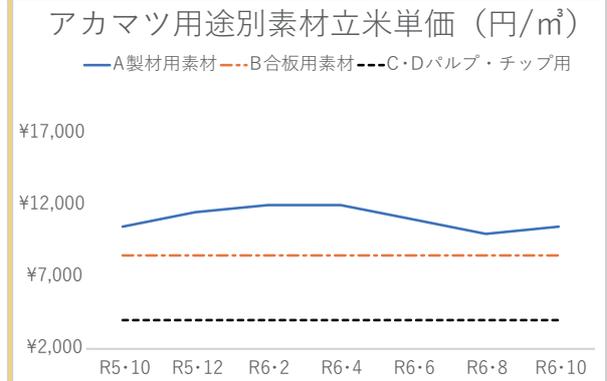
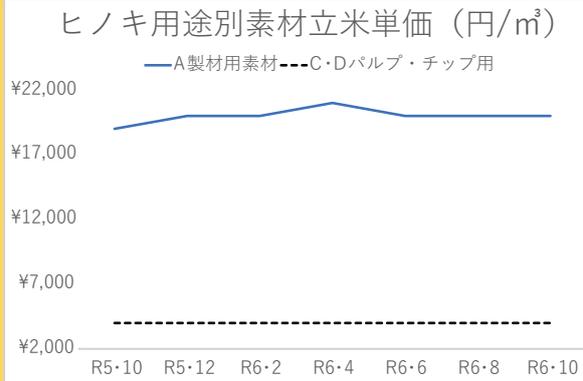
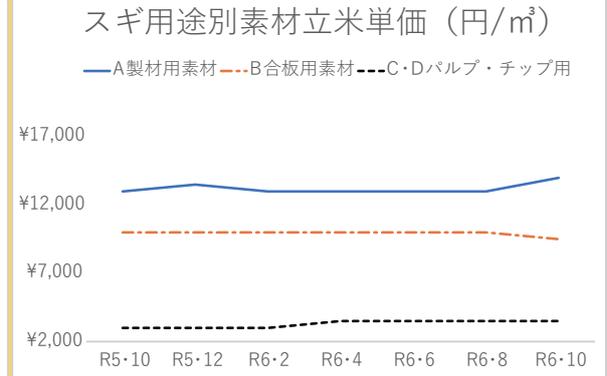
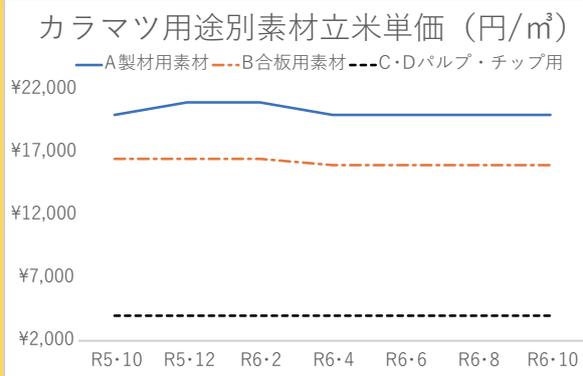
会場では経木の販売も行いました。木目の美しさを感じていただきました。

また、当会のマスコットキャラクター1作成的にあたり、今回「キャラクター1名前募集」を行い90名の方に応募していただきました。

信州の山や、森林を育てる苗木、森林資源を活用する丸太をイメージしながら、名前を真剣に考える姿が印象的でした。

キャラクター名は、12月15日まで当会ホームページにて募集中です。(詳しくは裏表紙をご覧ください。)

JForest 長野県の木材市況



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

だんだんと朝夕の冷え込むようになり、今年も残り2ヶ月を切った10月の県内各木材センターでは、応札が活発な市売りが行われました。北信木材センターでは、カラマツやヒノキの高齢級材、伊那木材センターでは、信州プレミアムカラマツや高齢級ヒノキが出品され、高値で取引されました。また、広葉樹についてはシーズンを迎え、高値が予想されますので積極的な出材をお願いします。

一方、製材用のスギ・ヒノキの丸太について、どちらも柱取り等の原木不足から値上げとなりましたが、いつまで続くかわからない状況となっております。合板用丸太については、各工場ともに減産体制が続いており、需要が低調となっております、出材の際には引き続き直造材を心掛けてください。

これから、11月に記念市・12月に納市・1月に初市と特別市が続いてまいりますので、出材予定の方は各木材センターまでお問合せをお願いします。

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

出材には合法認定業者の登録をお願いするとともに出材時にはその都度、合法認定番号及び伐採地と伐採箇所を詳しく記載した納品書及び伐採届の提出をお願いします。(安全のため荷下ろし、積み込みの際には車止め、またヘルメットの着用をよろしくをお願いします。)

キャラクターの名前大募集!!

自然豊かな信州の森林を守り育て活かす仕事
この度、そのお手伝いをする仲間が誕生しました!
まだ名前がないので、皆さんにつけてもらいたいです♪

- ①応募期間：10月19日～12月15日
- ②応募方法&注意事項：右下のQRコードからご覧下さい
- ③選考、決定及び公表
当会にて厳正な審査を行い12月25日に決定し、当会HPにて公表いたします。
採用された方には、当会より賞品を贈呈いたします!



県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております!

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください!

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪

